

日光二荒山神社
ちゆう くう し
中宮祠



御本殿（重文）



御本殿簷股

御社殿は奥宮、中宮祠、御本社と三社に分かれており、奥宮は男体山頂（海拔2484㍍）に、御本社は日光市山内に、中宮祠は男体山中腹（海拔1280㍍）の中禅寺湖畔に鎮まる。



登拝門・唐銅鳥居（重文）

御本殿・拝殿

江戸時代中期（1701年）の造営で、御本殿は流れ造、拝殿は入母屋造で総漆塗りの重要文化財である。

登拝門

霊峰男体山の登山口で、毎年5月5日より10月25日迄開かれ登拝することができる。

唐銅鳥居

神仏習合の名残りをとどめる珍しい鳥居で、重要文化財である。

五月なほ
ふかきみ雪の
男体の山に
とけては湖
となる
空穂



窪田空穂の歌碑



〒321-1661

栃木県日光市中宮祠2,484

日光二荒山神社 **中宮祠社務所**

TEL 0288-55-0017 (代)



半月峠より男体山と湖を望む

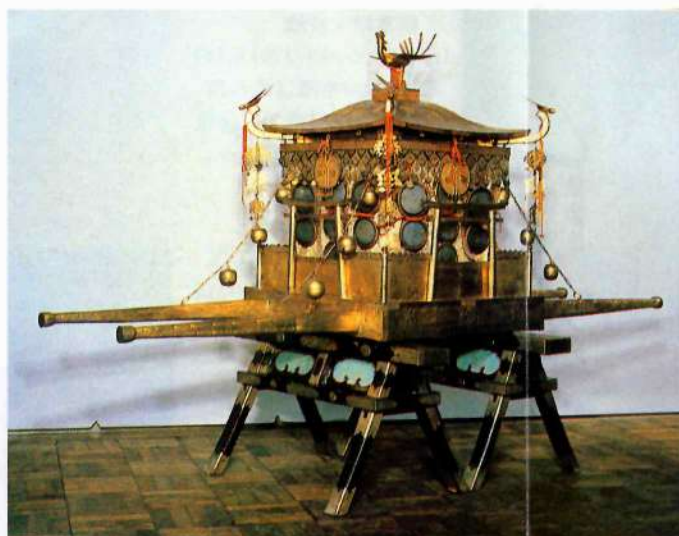
日光二荒山神社は太古、霊峰男体山（二荒山）を神鎮まします御山として尊崇したことから奉祀された1200余年の歴史を誇る名社である。延喜式名神大社に列し、下野国一の宮と崇められ、明治6年国幣中社に列せられた。

御祭神

おおなむらのみこと
大己貴命（大国主命）
たごりひめのみこと
田心姫命
あずききたかひこねのみこと
味耜高彥根命



前田青邨画「山霊感応」



金銅装神輿（重文）

御神徳

国土経営、産業開発、凡ての産業を司られ農業、醸造、婚姻、安産、医薬の祖神として遍く国土国民を守る。特に商売繁昌、家内安全、授児、安産、子育ての御神威は日本の津々浦々におよんでいる。

宝物館

日本一の太刀「祢々切丸」をはじめ多数の刀剣、男体山頂祭祀遺跡出土品、南北朝時代の神輿、後撰和歌集等の国宝・重文の宝物。他に皇室御物、前田青邨画伯の壁画、日光生息の動植物、郷土資料等が展示公開されている。



昭憲皇太后御物 御所車香炉



羽石光志画「屋島」



花喰鳥八棱鏡（重文）



後撰和歌集（重文）